

2019年6月2日(日)に大正大学において2019年度のコンテンツツーリズム学会の総会およびシンポジウムが開催され、盛況のうちに無事終わることが出来ました。基調講演では、『東アジア文化都市2019豊島 はらはら、どきどき、文化がいっぱい。』というテーマで、豊島区文化商工部東アジア文化都市推進担当課長の小池章一様が、豊島区の文化施策の歩みから現在の芸術文化を核としたまちづくりについて講演をされました。

豊島区は2009年に文化庁の文化芸術創造都市部門を受賞し、現在では国際アート・カルチャー都市構想実現戦略を実施している自治体であります。そして、東アジア文化都市として、6番目の開催都市に決定し、2019年2月には「東アジア文化都市2019豊島の開幕式典」が行われました。当該推進協議会では、芸術文化分野だけではなく、まちづくり、福祉、教育、子育てなどあらゆる分野の区民の人たちと共に推進しています。

具体的な事業内容は、豊島区民が鑑賞者としてだけではなく、文化の担い手となるような事業になるように進めてきたものです。たとえば、区民参加事業、継続事業、そして舞台芸術、祭事・芸能、マンガ・アニメといった事業を行っています。漫画・アニメ事業では、「オール豊島・ウェルカム・東アジア」を開催し、手塚治虫先生、里中真知子先生などの原画を展示すると同時に、区庁舎にアニメ・マンガの展示をし、区庁舎が「アニメの城」と題して開催し、トークショーなども展開するなど様々なマンガ・アニメ事業を取り組んでいます。シンポジウムでは、東アジア文化都市や池袋PRのためのアニメのプロモーションビデオも上映され、アニメによる豊島区の世界観に一瞬引き込まれました。

パネルディスカッションでは、「豊島区インバウンドとコンテンツツーリズム」をテーマに、基調講演でご登壇されました小池様、豊島区文化商工部文化観光課長の宮下あゆみ様、東アジア文化都市2019豊島マンガ・アニメ部門事業ディレクターの山内康裕様がパネリストとして登壇されました。まず、豊島区の文化商工部文化観光課長の宮下あゆみ様からは、2017年度の東京都の外国人旅行者における池袋を訪問した割合は20.8%を占め、約268万人が来訪していることが推計されているということが報告されました。また、豊島区におけるコンテンツツーリズムに関しては、特にマンガ・アニメを活用してPRしていこうというまちづくりを推進しており、トキワ荘ミュージアムや多言語対応のアニメの舞台となった場所を紹介したマップをはじめとして様々なマップを作成し、観光振興をしています。

また、大きく2つの論点とそれに関連したコンテンツツーリズムについて議論されました。まず、1つ目の論点は「豊島区は、これまでの東アジア文化都市と何が異なるのか」といった問いでした。これに対して、パネリストの方々は、豊島区が国際アート・カルチャー都市を押し出している点や人口規模も面積も一番小さい点、マンガ・アニメ業界から見て、トキワ荘などの聖地が多く立地している点が挙げられました。特に、作品自体の聖地は多くみられるが、プラットフォーム(マンガ制作の地)が聖地であるところはほとんどないという点が豊島区の特徴であると話されました。そのため、アジア文化都市事業では、豊島の特徴でもあるアニメ・マンガをコミュニケーションや学習のツールとして、日中韓のアニメを子供たちに鑑賞・体験してもらい、交流・発展を図っていきます。

次の論点は、「なぜ、池袋ではなく豊島なのか」という地域や都市のブランディング戦略にもかかわる議論でした。それに対して、池袋といえばアニメというイメージが強いが、トキワ荘はマンガの根強い聖地であり、その場所も池袋ではないため、アニメ・マンガといった分野においても、池袋だけではなく、豊島区全体で芸術文化のまちづくりを進めているということでした。また、豊島区には、東京芸術劇場などのハイカルチャーから乙女ロードなどのサブカルチャー、おばあちゃんの街として有名な巣鴨商店街まで文化の多様性や受容性を基盤としたまちづくりを目指しています。

そして、これらと関連するコンテンツツーリズムに関して、豊島区では、英国・エジンバラのように、豊島の多様性のあるコンテンツを活用した観光振興を目指しています。こうしたまちづくりを基盤としたコンテンツツーリズムのお話に対して、フロアーからは関連なご質問やご意見を頂きました。例えば、リピーターや他の人を連れてくるような仕掛け・仕組みが必要ではないかという問いかけがありました。これに対して、区では仕組みは必要であると同時に、一か所だけではなく、回遊性も必要だと考え事業を進めています。他にも、トキワ荘近隣の商店街をうまく巻き込めてないのではないか、という質問に対して、昨年度、テナントと地権者に活用意向などの調査を実施後、具体案は存在せず、それを踏まえて検討しています。その1つの解決法として回遊性を考慮していく必要があるという認識です。最後に、今後のキーワードをあげてもらいました。それらは、持続可能性の高いプラットフォームへの移行とその方法、次の時代への継承、人材育成という3つをあげています。

最後に、講演者と関係者の皆様、また当日運営にご尽力いただきました大正大学をはじめ当該関係者の方々、誠にありがとうございました。

## 【プログラム】

- 14:30 開会挨拶  
コンテンツツーリズム学会会長 増淵敏之（法政大学大学院教授）  
開催校代表 挨拶
- 15:10 基調講演「東アジア文化都市 2019 豊島 はらはら、どきどき、文化がいっぱい。」  
講師：小池章一氏（豊島区文化商工部東アジア文化都市推進担当課長）
- 16:00 パネルディスカッション「豊島区インバウンドとコンテンツツーリズム」  
司会：安田亘広（コンテンツツーリズム副会長）  
パネリスト：  
小池章一氏（豊島区文化商工部東アジア文化都市推進担当課長）  
宮下あゆみ氏（豊島区文化商工部文化観光課長）  
山内康裕（東アジア文化都市 2019 豊島マンガ・アニメ部門事業ディレクター）
- 17:00 閉会挨拶  
溝尾良隆（立教大学名誉教授/コンテンツツーリズム学会名誉会長）
- 17:30 意見交換会